

TEAMさくらまち

自ら学び 自ら考え 自ら行う

令和7年11月7日

長崎市立桜町小学校 校長 片岡 勝志



心を一つに いよいよ「桜っ子くんち」

ずいぶん涼しくなり、深まる秋を感じる季節となりました。子供たちは今、11月23日に行われる「桜っ子くんち」に向けて、一生懸命稽古に励んでいます。



1年 本踊



2年 唐人船



3年 川船



4年 桜っ子神輿



5年 龍踊



6年 太鼓山

この桜っ子くんちが、全校児童が出演する学校行事として始まったのは、今から23年前の平成14年です。当時、私は職員（担任）として本校に在籍しており、6年生の担任として「コッコデショ」の稽古に気合を入れて励んだことを、今でも鮮明に覚えています。地域の方々から熱心にご指導いただきながら、みんなが心を一つにして桜っ子くんちをつくり上げる。今まで23年間ずっと続けてきた、桜町小学校のよき伝統です。

桜町小学校は平成9年に開校しました。来年は開校30周年です。当時の開校記念式典で配られた「開校のしおり」には、新しい桜町小学校が目指す学校像について、校長先生が次のように語っておられました。

「私共が目ざす新しい学校は、子供にとって学校に通うことが楽しく、学校生活を通して、子供一人一人が夢と希望を確信できる、そんな学校です。そのため、学校教育目標を『自ら学び 自ら考え 自ら行う』としました。」

これは、まさに今で言う「ウェルビーイング」の追求です。

当時の保護者代表の方は、次のように語っておられます。

「先生方も日本一の素晴らしい学校にしようと頑張っていると思いますが、私たち保護者も一緒になって、子供たちがいきいきと輝くような学校づくりをしたいものです。桜町小学校はせっかく新しい学校になった訳ですから、活動の在りかた等も従来の枠にとらわれることなく子供・保護者・学校・地域を深く結びつけるような活動を模索していきたいと思います。」

学校と保護者や地域の皆様との強い連携が伺えます。そこには、地域に根差し、地域に開かれた新しい

教育活動を推進していこうという高い志が示されていました。

本校は、開校当時、まだ、ほとんどの学校が時間割に位置づけていなかった「体験的な活動を生かした総合的な学習」を先進的に研究し、地域の「人・もの・こと」を教材化した授業づくりを進めていました。また、学校最大の行事である運動会を地域との共催とし、計画段階から地域の方々が参画しています。

「桜っ子文化祭」と名付けた秋の文化的な行事は、開校の翌年、平成10年に始まります。この文化祭は、学習発表会の形式でした。体育館では、各学年から、劇や合唱・合奏、総合的な学習の時間に地域について学んだことなどが発表されました。地域の踊り町の方々からご指導いただいたおくんちの出し物を披露した学年も複数ありました。

この「桜っ子文化祭」を「桜っ子くんち」に変えたのが平成14年です。すでに複数の学年が、文化祭で地域の方々から教えていただいた出し物を披露していたのですが、全校で「くんち」をすることにした背景には、「長崎の大切な伝統文化に触れること、地域の方々にご指導いただきながらみんなで心をつなぐ出し物をつくり上げること」の教育効果の大きさがありません。

あれから23年。熱心にご指導くださる地域の皆様と、稽古を頑張る子供たちの姿に、この桜っ子くんちがどんどん進化し続けていることを感じています。

さあ、いよいよ今月の23日は本番です。子供たちはこれまでの稽古の成果をすべて出し切り、「心を一つに完全燃焼」してくれることを信じています。

